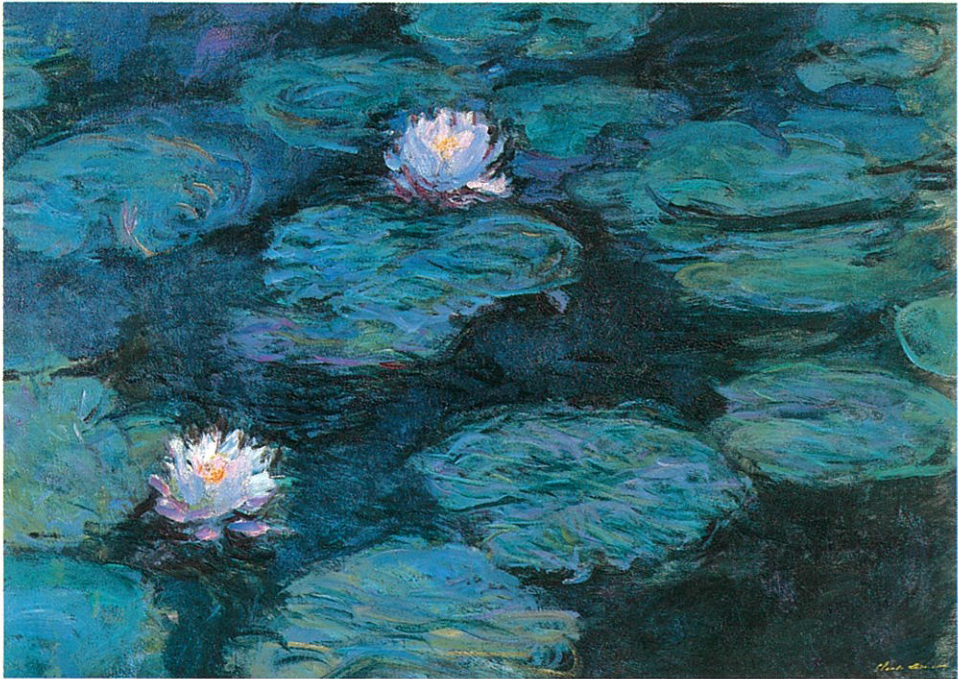


市立美術報 だより

発行 鹿児島市立美術館 〒892 鹿児島市城山町4番36号 TEL (0992) 24-3400



クロード・モネ 睡蓮 1897~98年頃 (89.0×130.0cm)

解説文 クロード・モネ (1840~1926) は、パリ、ラフィット街の食料品店に生まれる。作者は初期にクールベやコローなどバルビゾン派の影響を受けるが、後にカフェ・ゲルボアの集りを通じてマネに感化され、印象派の代表的画家となった。

カフェ・ゲルボアという集りは、マネの絵画に対する考え方や描写の方法が、当時のサロン審査員より、意義深いと思った若い人たちが集った会であるが、その中にはモネ、外にトガ、ピサロ、シスレーなど、後の「印象派」と呼ばれる画家たちがいた。

クロード・モネは生涯を通じて「ルーアン大聖堂」や「つみわら」などの連作を残している。明るい色彩と筆触分割の手法で、外光の刻々と変化する微妙な光をテーマに印象主義の様式を確立した。

本作品は、晩年のテーマ「睡蓮」シリーズの最初期のもので、ジベルニーのモネ邸にある日本庭園に浮ぶ睡蓮を描いた作品である。描かれた水面の葉はゆるやかな斜線で結ばれ、見る人の視線を静かに広い空間へと誘っているようである。又、モチーフに接近した大胆なトリミングの構図は新鮮で、浮世絵版画に影響された一面と言える。